

令和4年度

島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻（博士前期課程）

学生募集要項

入学案内

島根大学大学院医学系研究科

目 次

アドミッション・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	1
ディプロマ・ポリシー	1

社会人推薦入試

1 募 集 人 員	2
2 募 集 する 教 育 研 究 コ ー ス	2
3 出 願 資 格	2
4 出 願 手 続	3
5 入 試 方 法	5
6 合 格 者 発 表	5

一般入試（第1次・第2次）

1 募 集 人 員	6
2 募 集 する 教 育 研 究 コ ー ス	6
3 出 願 資 格	6
4 出 願 手 続	7
5 入 試 方 法	9
6 合 格 者 発 表	9

共通事項

1 入 学 手 続	10
2 入 学 者 選 抜 試 験 成 績 の 提 供	10
3 長 期 履 修 制 度	11
4 入 学 料 ・ 授 業 料 の 免 除 及 び 徴 収 猶 予 制 度	11
5 奨 学 金 制 度	11
6 学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険	11
7 個 人 情 報 の 取 扱 い	12

入学案内

1 目 的	13
2 修 業 年 限 ・ 修 了 の 要 件 、 学 位	13
3 昼 夜 開 講 制 ・ 長 期 履 修 制 度	13
4 各 コ ー ス の 特 色	13
5 コ ー ス 別 指 導 教 員 （ 看 護 学 特 別 研 究 及 び 看 護 学 課 題 研 究 担 当 教 員 ）	14
6 履 修 方 法	15
7 履 修 モ デ ル	17
8 授 業 科 目 の 内 容 及 び 担 当 教 員	18

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応について
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生募集要項等で公表した内容による入試実施が困難な場合、日程（出願期間、試験日時、合格発表日等）及び入試方法の変更等の対応を取ることがあります。ホームページで情報を確認してください。出願及び受験の直前には特に注意してください。また、出願される方は本学の指導予定教員と綿密に連絡を取るようしてください。

◆アドミッション・ポリシー◆

博士前期課程修了後には、卓越した臨床実践能力と創造的な教育・研究能力を駆使して、地域の保健・看護・福祉等の分野で活躍できる高度な実践者となるために、以下の資質を備えた人を求めます。

1. 幅広い基礎学力と希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 豊かな人間性と看護専門職としての高い倫理観を有する人
3. 明確な問題意識を持ち、主体的に学習と研究に取り組める自律した人
4. 大学院修了後は保健・医療の場や大学等で看護をリードしていく志のある人
5. 看護学の発展をとおして社会に貢献する意思を有する人

◆カリキュラム・ポリシー◆

教育理念に基づき、効果的に教育目標を達成するために、以下のようにカリキュラムをデザインしています。

(1) 専門教育のあり方

看護学全般において多様な選択ができるよう、看護学の全領域を網羅的にカバーした、「看護援助学」「看護管理学」「地域・在宅看護学」「母子看護学」「がん・成人看護学」「高齢者看護学」「がん看護 CNS」「老人看護 CNS」「助産学」の 9 コースを設置しています。

(2) 教育課程の構造と教育方法

1. 専門分野の看護学を系統的に学び、研究課題を見出し、修士論文に繋げられるよう、専門分野の「特論 2 単位」「演習 2 単位」「看護学特別研究 8 単位」（がん看護 CNS コース，老人看護 CNS コース，助産学コースにおいては「看護学課題研究 4 単位」）を 1 セットで必修としています。
2. 看護学の基盤を成す「看護倫理」「コンサルテーション論」等の科目を「基盤科目」とし、専攻分野に関わらず選択必修 8 単位を課しています。
3. 専攻した分野以外にも、幅広い看護学の知見を学べるよう、『専門選択科目』16 科目と各専門分野の「特論」7 科目を設定しています。
4. 研究能力の向上をめざし、全員が「看護研究方法演習」で多様な研究方法の基本を学んだ後に修士論文に取り組めるようにしています。

◆ディプロマ・ポリシー◆

原則として 2 年以上在学し、所定の単位(30 単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査に合格することにより 修士(看護学)の学位が授与されます。

そのためには、以下の学習成果を上げることが求められます。

1. 修士論文の作成をとおして、体系的な研究方法を身につけていること
2. 専攻した看護学専門分野の高度な知識と技術を身につけていること
3. 組織的に問題解決を図るための総合的な判断力と行動力を身につけていること

社会人推薦入試

社会人推薦入試は、病院及び福祉施設等に勤務している者が、勤務先の長の推薦により受験する入試制度です。

社会人推薦入試は、1回（10月）行います。

助産学コースでは社会人推薦入試は実施しません。

1 募集人員

看護学専攻博士前期課程 若干人

2 募集する教育研究コース

コ	ー	ス
看	護	援
助	学	コ
ー	ス	
看	護	管
理	学	コ
ー	ス	
地	域	・
在	宅	看
護	学	コ
ー	ス	
母	子	看
護	学	コ
ー	ス	
が	ん	・
成	人	看
護	学	コ
ー	ス	
高	齢	者
看	護	学
コ	ー	ス
が	ん	看
護	C	N
S	コ	ー
ス		
老	人	看
護	C	N
S	コ	ー
ス		

3 出願資格

令和4年4月1日現在で、看護師、保健師又は助産師の資格を有し、次の①～⑤のいずれかに該当する者で、以下のA.～C.の条件を満たし、勤務先の長が責任をもって推薦できる者としてします。

なお、勤務先の長（病院長・福祉機関の長・施設長等）が推薦し得る人員は、特に制限しません。

- A. 看護学分野への問題意識と強い学習意欲を有する者
- B. 高い看護実践能力を有する者
- C. 合格した場合は、入学することを確約できる者

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑤の2 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別

に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

- ⑥ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号)
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学において認定試験を行い、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

【例】 (令和4年3月末日までに修了見込みの者を含む。)

- 1) 保健医療福祉機関等での実務経験が3年以上あり、研究発表等の実績がある者
- 2) 自治体、看護協会、学術団体、大学等が主催する看護分野の研修・講習会の受講時間の合算が150時間程度または25日程度ある者
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了した者
- 4) 訪問看護師養成講習会を受講した者
- 5) 実習指導者養成講習会を受講した者
- 6) 看護学校看護教員養成研修の課程を修了した者
- 7) 認定看護師の養成課程を修了した者
- 8) 保健師・助産師・養護教諭の養成課程を修了した者

(注意) 上記⑧、⑨によって出願しようとする者は、事前に出願資格審査の説明を行いますので、

令和3年8月12日(木)までに医学部学務課大学院担当に相談してください。

4 出願手続

(1) 出願受付期間

令和3年8月23日(月)から8月27日(金)まで。

窓口受付は9時から17時まで。

なお、郵送による場合も8月27日(金)必着とします。

(2) 出願方法

出願書類は一括して提出してください。郵送の場合は、必ず本学所定の封筒を用い、特定記録郵便によって提出してください。

なお、出願に際しては、あらかじめ志望するコースの担当教員に照会の上、出願してください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1

島根大学医学部学務課入試・大学院担当(出雲キャンパス)

電話 0853-20-2083

E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

(4) 出願書類等

提出書類		摘要
①	入学志願票	本要項添付の用紙に記入してください。
②	受験票・写真票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上、写真（上半身、無帽、正面向きとし、出願前3か月以内に撮影したもの）を所定欄に貼付してください。
③	成績証明書	大学等の成績証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。本学を卒業した者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。
④	卒業証明書	大学等の卒業証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。本学を卒業した者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。
⑤	勤務先の長の推薦書	本要項添付の用紙を使用し、勤務先の長（病院長・福祉機関の長・施設長等）が作成し、厳封したものとします。
⑥	研究志望書	看護研究のテーマ、目的、動機、内容について、本要項添付の用紙により作成してください。
⑦	入学検定料 振込金証明書	<p>入学検定料 30,000 円 ※災害等により入学検定料免除の特例措置を希望される方は、事前に申請が必要となりますので、本学ホームページ（https://www.shimane-u.ac.jp）の「入試情報」→「お知らせ」→「入学検定料免除について」をご確認ください。</p> <p>令和4年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（令和3年8月16日（月）～令和3年8月27日（金））の窓口取扱時間内（15時00分まで）に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。（ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。）振込手続後、窓口で返却された「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。</p> <p>特例措置により検定料免除を許可された場合は、不要です。</p> <p>なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。</p> <p>①出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。</p> <p>②入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 ③入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合</p> <p>上記②及び③については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、9月3日（金）までに財務部経理・調達課出納担当（電話0852-32-6029）へ連絡（土曜日、日曜日を除く9時から17時までの間）してください。</p> <p>なお、返還の手続を行う際に「Ⅱ票 振込金受取書（志願者保管）」及び「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。</p>
⑧	返信用封筒 （受験票送付用）	本要項添付の返信用封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、544円分の切手を貼付してください。
⑨	あて名票 （合格通知書送付用）	本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。

⑩	免許証の写し	看護師、保健師、助産師の免許証の写しをA4サイズに縮小して提出してください。
⑪	在職期間証明書	適宜の様式で、在職時の職名、在職期間を証明できる書類を提出してください。
⑫	受験許可書	現在在職中の者は、所属長の受験許可書（様式自由）を必ず提出してください。
⑬	「在留カード」の写し	外国人の志願者は、「在留カード」の写しを提出してください。

(注意)

- ① いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- ② 出願書類に不備がある場合は、受理できません。
- ③ その他不明な点があれば前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい、その他の障がい等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始までに前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」に相談してください。

5 入試方法

(1) 選抜方法

専門領域問題（志望するコース）、口述試験（面接）及び提出書類の審査を総合して判定します。

(2) 試験日程及び試験科目等

試験日程	試験科目等	試験時間	試験場
令和3年10月8日（金）	専門領域問題	13：30～14：30	島根大学医学部 （出雲キャンパス）
	口述試験	16：15～	

(備考)

口述試験は、志望するコースについて行います。

6 合格者発表

令和3年11月12日（金）11時

合格者本人には、合格通知書を郵送します。

なお、電話等による合否の照会には応じません。

また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

一 般 入 試

一般入試は、2回（第1次は10月、第2次は2月）行います。

1 募集人員

看護学専攻博士前期課程 12人（若干人）

【注1】募集人員には、社会人推薦入試を含みます。

【注2】（ ）内は、第2次の募集人員で内数です。

2 募集する教育研究コース

コ ー ス
看護援助学コース
看護管理学コース
地域・在宅看護学コース
母子看護学コース
がん・成人看護学コース
高齢者看護学コース
がん看護CNSコース
老人看護CNSコース
助産学コース

助産学コースは最大3名

3 出願資格

(1) 一般入試

次の各号のいずれかに該当する者とします。

（令和4年3月末日までに該当する見込みの者を含む。）

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑤の2 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑥ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学において認定試験を行い、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認

めた者で、22歳に達した者

【例】（令和4年3月末日までに修了見込みの者を含む。）

- 1) 保健医療福祉機関等での実務経験が3年以上あり、研究発表等の実績がある者
- 2) 自治体、看護協会、学術団体、大学等が主催する看護分野の研修・講習会の受講時間の合算が150時間程度または25日程度ある者
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了した者
- 4) 訪問看護師養成講習会を受講した者
- 5) 実習指導者養成講習会を受講した者
- 6) 看護学校看護教員養成研修の課程を修了した者
- 7) 認定看護師の養成課程を修了した者
- 8) 保健師・助産師・養護教諭の養成課程を修了した者

(注意) 上記⑧、⑨によって出願しようとする者は、事前に出願資格審査の説明を行いますので、第1次：令和3年8月12日（木）、第2次：令和3年12月8日（水）までに医学部学務課入試・大学院担当に相談してください。

(2) 助産学コースに係る入試

前記(1)の各号のいずれかに該当し、かつ、看護師免許を有し、又は看護師免許取得見込みの者で学業に専念できる者（ただし、看護師国家試験不合格の者は、本入学試験合格者であっても入学することはできません。）

4 出願手続

(1) 出願受付期間

区 分	出 願 期 間
第 1 次	令和3年8月23日（月）から令和3年8月27日（金）まで。 窓口受付は9時から17時まで。 なお、郵送による場合も8月27日（金）必着とします。
第 2 次	令和3年12月20日（月）から令和3年12月24日（金）まで。 窓口受付は9時から17時まで。 なお、郵送による場合も12月24日（金）必着とします。

(2) 出願方法

出願書類は一括して提出してください。郵送の場合は、必ず本学所定の封筒を用い、配達記録郵便によって提出してください。

なお、出願に際しては、あらかじめ志望するコースの担当教員に照会の上、出願してください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1

島根大学医学部学務課入試・大学院担当（出雲キャンパス）

電話 0853-20-2083

E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

(4) 出願書類等

	提 出 書 類	摘 要
①	入 学 志 願 票	本要項添付の用紙に記入してください。
②	受 験 票 ・ 写 真 票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上、写真（上半身、無帽、正面向きとし、出願前3か月以内に撮影したもの）を所定欄に貼付してください。

③	成績証明書	大学等の成績証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。本学を卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。
④	卒業証明書等	大学等の卒業証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。本学を卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者は、本学部内で発行手続を行いますので提出を要しません。 なお、令和4年3月大学卒業（又は専攻科修了）見込みの者は、卒業（又は修了）見込証明書とします。
⑤	研究志望書	看護研究のテーマ、目的、動機、内容について、本要項添付の用紙により作成してください。
⑥	入学検定料 振込金証明書	入学検定料 30,000 円 ※災害等により入学検定料免除の特例措置を希望される方は、事前に申請が必要となりますので、本学ホームページ (https://www.shimane-u.ac.jp) の「入試情報」→「お知らせ」→「入学検定料免除について」をご確認ください。 令和4年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（第1次：令和3年8月16日（月）～令和3年8月27日（金）、第2次：令和3年12月13日（月）～令和3年12月24日（金））の窓口取扱時間内（15時00分まで）に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。（ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。）振込手続後、窓口で返却された「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。 特例措置により検定料免除を許可された場合は、不要です。 なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。 ①出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。 ②入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 ③入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合 上記②及び③については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、第1次：9月3日（金）、第2次：1月7日（金）までに財務部経理・調達課出納担当（電話0852-32-6029）へ連絡（土曜日、日曜日、12/29～1/3及び祝日を除く9時から17時までの間）してください。 なお、返還の手続を行う際に「Ⅱ票 振込金受取書（志願者保管）」及び「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。
⑦	返信用封筒 （受験票送付用）	本要項添付の返信用封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、544円分の切手を貼付してください。
⑧	あて名票 （合格通知書送付用）	本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。
⑨	受験許可書	現在在職中の者は、所属長の受験許可書（様式自由）を必ず提出してください。
⑩	「在留カード」の 写し	外国人の志願者は、「在留カード」の写しを提出してください。

(注意)

- ① いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- ② 出願書類に不備がある場合は、受理できません。
- ③ その他不明な点があれば前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい、その他の障がい等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始までに前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」に相談してください。

5 入試方法

(1) 選抜方法

筆記試験（専門領域問題，英語），口述試験（面接）及び提出書類の審査を総合して判定します。

(2) 試験日程及び試験場

区 分	試 験 日 程	試 験 場
第 1 次	令和3年10月8日（金）	島根大学医学部 （出雲キャンパス）
第 2 次	令和4年 2月5日（土）	

(3) 試験科目等

試験科目等	試験時間
専門領域問題	13：30～14：30
英 語	14：45～15：45
口 述 試 験	16：15～

(備考)

- ① 英語の試験時間において、一般的な語学用辞書（医学専門辞書及び電子辞書は不可）の持込みを許可します。
- ② 口述試験は、志望するコースについて行います。

6 合格者発表

区 分	発 表 日 時
第 1 次	令和3年11月12日（金） 11時
第 2 次	令和4年 3月 7日（月） 11時

合格者本人には、合格通知書を郵送します。

なお、電話等による合否の照会には応じません。

また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

共 通 事 項

1 入学手続

合格者は、入学手続期間に入学手続書類等を持参の上、入学手続を行ってください。詳細については、合格通知書送付の際に連絡します。

なお、助産学コース合格者は、入学手続きを完了した者であっても、看護師国家試験に不合格であった場合は入学許可を取り消します。

(1) 入学手続期間

令和4年3月7日（月）～令和4年3月11日（金） 9時から17時まで

(2) 入学手続場所

島根大学医学部学務課大学院担当（出雲キャンパス）

(3) 入学料及び授業料

- ① 入学料 282,000円（予定額）

【注意事項】 入学手続時までに入料金の改定が行われた場合は、新入学料が適用されます。

- ② 授業料 : 授業料は、入学後にお支払いいただくことになります。

(1) 授業料の額（前期分）267,900円（後期分）267,900円【年額】535,800円

(2) 授業料のお支払方法

授業料のお支払は、預貯金口座からの「口座振替」を原則としています。

【注意事項】 入学時及び在学中に改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

2 入学者選抜試験成績の提供

入学者選抜試験成績を、次のとおり提供します。

(1) 提供内容

学力試験の得点

(2) 申請期間

令和4年5月9日（月）～5月31日（火）

(3) 申請方法

申請は、医学部学務課入試・大学院担当へ直接来学又は郵送のいずれかの方法で行ってください。

(4) 申請時必要書類

- ① 入試情報提供申請書（次のいずれかの方法により取り寄せてください。）

ア 島根大学ホームページから印刷して使用してください。

イ 医学部学務課入試・大学院担当へ直接来学してください。

ウ 郵送の場合は、返信用封筒（長形3号、12cm×23.5cmの大きさのものに84円分の切手を貼り、郵便番号、住所、氏名を明記したもの）を同封し、「入試情報提供申請書請求」と明記したメモを添えて申し込んでください。

- ② 島根大学受験票

- ③ 返信用封筒（長形3号、12cm×23.5cm）（郵送の場合のみ） 1

封筒には、必ず申請者本人の住所、氏名、郵便番号を明記し、簡易書留分の切手（404円分）を貼ってください。

(5) 提供の決定通知

提供申請の結果は、入試情報提供申請書の受理後30日以内に入試情報提供通知書により通知します。

(6) 提供方法

郵送又は申請者（受験者）本人に直接文書を交付することにより提供します。なお、直接来学する場合は、本人であることを証明できる書類の提示が必要です。

(7) 申請及び提供場所

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
島根大学医学部学務課入試・大学院担当
電話 0853-20-2083

3 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している人などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な人が、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程の履修を行う制度です。

(1) 長期履修を申請することができる人

- ① 職業を有している人
- ② 育児、親族の介護等の特別の事情のある人

(2) 長期履修の期間

長期履修が認められる期間は年単位で、標準の修業年限の2倍の年数を超えることができません。
2年 → 3年又は4年

(3) 授業料

授業料は、通常の授業料の年額に標準修業年限を乗じた額を長期履修期間の年数で除した額を毎年納入します。

(通常の年額授業料×2年) ÷ (3年又は4年) = 長期履修の年額授業料

例1) 3年の長期履修の場合 535,800円×2年÷3年=357,200円 (年額)

例2) 4年の長期履修の場合 535,800円×2年÷4年=267,900円 (年額)

(4) 申請手続

- ① 申請時期 : 入学手続期間内
- ② 提出書類
ア. 長期履修申請書
イ. 在職証明書 (職業を有している人)
ウ. その他大学院が必要として求める書類

(5) その他

長期履修を希望される方は、入学手続時に申し出てください。

相談窓口

島根大学医学部学務課入試・大学院担当
〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
電話 0853-20-2083
E-mail msa-daigakuin@office.shimane-u.ac.jp

4 入学金・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学金については、経済的理由によって納入が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは特別の事情 (入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等) によって納入が困難であると認められる者に対して、その全額又は半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度があります。

授業料についても、入学金と同様な制度があります。

5 奨学金制度

【日本学生支援機構奨学金】

学業成績、人物ともに優れ、経済的理由によって修学困難な方には、選考の上、奨学金が貸与されます。

令和3年度貸与月額

- 第一種奨学金 (無利子) 50,000円又は88,000円
- 第二種奨学金 (有利子) (年3%を上限とする利息付、在学中は無利息)
50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円の5種類から貸与額を選択

6 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中及び通学中等に傷害を被った場合あるいは、他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で、医学部では学生全員が加入する保険です。

7 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については、次のとおり取り扱います。

出願書類等に記載された個人情報（氏名，生年月日，性別その他の個人情報等）は，入学者選抜及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。

また，同個人情報は，合格者の入学後の教務関係（学籍，修学指導等），学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/personal_data/personal_data02.html

入学案内

1 目的

本学看護学専攻博士前期課程は、豊かな人間性と幅広い視野を基盤として科学的な視点から看護学の学識を教授研究し、卓越した看護実践能力と創造的な研究能力を持つ人材の育成を目的とします。

2 修業年限・修了の要件、学位

原則として2年以上在学し、所定の単位（30単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査に合格することとします。学位は、修士（看護学）です。

3 昼夜開講制・長期履修制度

社会人が職業を継続しながら就学できるよう、大学院設置基準第14条の規定を活用した「**昼夜開講制**」、並びに「**長期履修制度**」を設けています。

4 各コースの特色

看護学専攻は、高度な実践者・教育者・研究者の育成のいずれにも対応できるよう、看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、高齢者看護学コース、がん看護CNSコース、老人看護CNSコース、助産学コースの9コースを設置し、専門必修科目・専門選択科目・基盤科目の三つの柱で教育課程を構成しています。

1) 看護援助学コース

現代および将来を見据えたヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的思考力を獲得し、看護援助に関する現象や看護技術の検証と新たな看護援助の開発を目指した教育・研究を行います。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行います。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規程第21条に定める実務経験を有する者は、**認定看護管理者**認定審査の受験資格を得ることができます。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域及び集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行います。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行います。

4) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の見点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行います。

5) がん・成人看護学コース

成人期を生きる視点から、生命、生活および健康にとって重大な課題であるがんや今日的な健康課題・健康障害について理解を深め、社会に生き世代をつなぐ成人期にある人への看護に関連した理論と方法を学び、患者・家族のQOL向上をめざした看護実践を探求する教育・研究を行います。

6) がん看護CNSコース

卓越したがん看護実践に向けて、高度で複雑な課題を解決するための看護援助諸理論を修得するとともに専門看護師としての機能と役割を開発する諸理論や方法を学びます。そして、キュアとケアを統合し、がん患者とその家族のQOL向上を目指した高度ながん看護実践能力・適切な倫理的判断力・研究的視点を備えた看護専門職者の育成を目指します。

※本コースでは、必須科目に加えて、専門看護師の各分野に対応する領域の科目、ならびに指定の科目を履修することにより、博士前期課程修了後にがん看護専門看護師認定試験受験につながる単位を取得できます。

7) 高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行います。

8) 老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指します。

9) 助産学コース

自立して正常な妊娠・分娩・産褥期のケアができる能力と妊娠期から分娩期、子育て期まで継続的に母子を支援できる能力を身につけ、院内助産システムや助産院で活躍できる助産診断力・実践力をもつ助産師を育成します。また、臨床現場の問題・課題を解決に導く研究力を培い、より質の高い助産ケアを探究・創造できる助産師の育成を目指します。

5 コース別指導教員（看護学特別研究及び看護学課題研究担当教員）：令和4年度予定

コース	指導教員	研究テーマ
看護援助学	福間 美紀教授	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践の場における感染管理に関する研究 介護保険制度や介護予防に関する研究 がん化学療法関連業務における曝露予防に関する研究 看護実践及び教育の効果検証に関する研究
看護管理学	津本 優子教授	<ul style="list-style-type: none"> 看護情報や情報システムに関する研究 看護職の人材育成・活用に関する研究 看護職の継続教育に関する研究
地域・在宅看護学	伊藤 智子教授	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の認知機能と社会生活に関する研究 高齢者の認知機能と生活習慣病に関する研究 介護予防に関する研究 地域包括ケアシステムに関する研究
母子看護学	秋鹿 都子准教授	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー疾患の子どもと家族に関する研究 スキンケアに関する研究 がん患者の子どもに関する研究 子どもと家族の意思決定支援に関する研究
	福田 誠司教授	<ul style="list-style-type: none"> 小児の遺伝性疾患に関する研究 小児の血液悪性腫瘍に関する研究 小児の発達と発育に関する研究 医療安全、ワークライフバランスに関する研究
がん・成人看護学	橋本 龍樹教授	<ul style="list-style-type: none"> 中枢神経系の組織形成と成熟に関する研究 成人期の知的障がい者の生活習慣病予防と体力維持に関する研究 人体発生学と先天奇形に関する研究
がん・成人看護学	若崎 淳子教授	<ul style="list-style-type: none"> 治療過程に在るがん患者の看護に関する研究 がん患者への看護介入プログラム開発に関する研究 がん患者のレジリエンスに関する研究 がん患者とその家族のQOL向上をめざした臨床看護学研究 薬物療法過程に在るがん患者の看護に関する研究 緩和ケアに関する研究
がん看護CNS		

高齢者看護学	原 祥子教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の自我発達支援に関する研究 ・ 高齢者看護ケアの開発 ・ 高齢者看護ケアの質及びその評価に関する研究 ・ 在宅ケアシステムに関する研究 ・ 高齢者施設ケア及び訪問看護に関する研究 ・ 高齢者看護における倫理的課題に関する研究
老人看護CNS		
助産学	橋本 美幸准教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援に関する研究 ・ 効果的な地域母子支援サービスのあり方に関する研究 ・ 看護ケアのアウトカム評価に関する研究 ・ 母子家庭訪問事業の評価に関する研究

6 履修方法

老人看護CNSコース・がん看護CNSコース・助産学コース専攻者以外は、下記の修了要件を満たすよう、「履修モデル」より必要となる科目を履修します。

区 分	履 修 科 目	単 位 数
専門必修科目	専攻するコースの特論：2単位 専攻するコースの演習：2単位 看護学特別研究：8単位	12単位
専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	10単位以上
基盤科目		8単位以上
	合 計	30単位以上

※ がん看護CNSコース

専門看護師教育課程（がん看護）として認定されています。下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」よりがん看護CNS受験資格に必要な科目を履修します。

区 分	履 修 科 目	単位数
専門必修科目	がん看護学特論：2単位 がん看護学演習：2単位 がん薬物療法看護援助論：2単位 緩和ケア演習：2単位 がん看護学実習Ⅰ：2単位 がん看護学実習Ⅱ：2単位 がん看護学実習Ⅲ：2単位 がん看護学実習Ⅳ：2単位 がん看護学実習Ⅴ：2単位 看護学課題研究：4単位	22単位
専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	14単位以上
基盤科目		8単位以上
	合 計	44単位以上

※ 老人看護CNSコース

専門看護師教育課程（老年看護）として認定されています。下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より老人看護CNS受験資格に必要な科目を履修します。

区 分	履 修 科 目	単位数
専門必修科目	高齢者看護学特論：2単位 高齢者看護学演習：2単位 高齢者アセスメント論：2単位 老年高度看護実践論：2単位 高齢者サポートシステム論：1単位 老年慢性期ケア演習：2単位 高齢者看護学実習Ⅰ：6単位 高齢者看護学実習Ⅱ：4単位 看護学課題研究：4単位	25単位
専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	12単位以上
基盤科目		8単位以上
	合 計	45単位以上

※ 助産学コース

下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より助産師受験資格に必要な科目を履修します。

区 分	履 修 科 目	単位数
専門必修科目	助産学特論：2単位 助産学演習：2単位 生殖器病態生理学：1単位 助産薬理学：1単位 女性の健康教育学：2単位 地域母子保健学：1単位 妊娠期助産診断・技術学：1単位 分娩期助産診断・技術学：2単位 産褥・新生児期助産診断・技術学：2単位 助産臨床推論：1単位 助産管理学：2単位 助産学実習Ⅰ・Ⅱ：11単位 地域助産学実習：6単位 地域助産学演習：3単位 看護学課題研究：4単位	41単位
専門選択科目	専門選択科目	12単位以上
基盤科目		8単位以上
	合 計	61単位以上

7 履修モデル

授業科目名	開講年次	単位数			看護援助学	看護管理学	地域・在宅看護学	母子看護学	がん・成人看護学	がん看護CNS	高齢者看護学	老人看護CNS	助産学
		講義	演習	実習									
看護援助学特論	1	2			●								
看護援助学演習	1		2		●								
看護管理学特論	1	2				●			☆			☆	
看護管理演習	1		2			●							
地域・在宅看護学特論	1	2					●						
地域・在宅看護学演習	1		2				●						
母子看護学特論	1	2						●					
母子看護学演習	1		2					●					
がん看護学特論	1	2							●	●			
がん看護学演習	1		2						●	●			
高齢者看護学特論	1	2								☆	●	●	
高齢者看護学演習	1		2								●	●	
高齢者アセスメント論	1	2									●	●	
老年高度看護実践論	1	2									●	●	
高齢者サポートシステム論	1	1									●	●	
老年慢性期ケア演習	1		2								●	●	
高齢者看護学実習Ⅰ	1			6							●	●	
高齢者看護学実習Ⅱ	2			4							●	●	
専門必修科目	がん薬物療法看護援助論	1・2	2						●				
	緩和ケア演習	1		2					●				
	がん看護学実習Ⅰ、Ⅱ	1		2					●				
	がん看護学実習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	2		2					●				
	助産学特論	1	2										●
	助産学演習	1		2									●
	生殖器病態生理学	1	1										●
	助産薬理学	1	1										●
	女性の健康教育学	1・2		2									●
	地域母子保健学	1	1										●
	妊娠期助産診断・技術学	1		1									●
	分娩期助産診断・技術学	1		2									●
	産褥・新生児期助産診断・技術学	1		2									●
	助産臨床推論	1	1										●
	助産管理学	1・2	2										●
	助産学実習Ⅰ	1		9									●
	助産学実習Ⅱ	1		2									●
	地域助産学実習	1・2		6									●
	地域助産学演習	2		3									●
	看護学課題研究	2		4					●				●
	看護学特別研究	2		8		●	●	●	●	●		●	●
	リスクマネジメント論	1・2	2			◎							
	看護人材育成論	1・2	2			◎			☆			☆	
	看護情報管理論	1・2	2			◎							●
	保健医療福祉政策論	1・2	2			◎	○					●	
	老年疾患治療論	1・2	2								○	●	
	認知症看護論	1・2	2								○	●	
専門選択科目	がん看護病態生理治療学	1・2	2					○	●				
	がん看護学援助論	1・2	2					○	●				
	がん薬物療法看護論	1・2	2					○	●				
	緩和ケア論	1・2	2					○	●				
	フィジカルアセスメント	1・2	2						☆		☆		●
	病態生理学	1・2	2						☆		☆		●
	臨床薬理学	1・2	2						☆		☆		●
	助産フィジカルアセスメント方法論	1・2		2									●
	女性の精神保健学	1	1										●
	異文化コミュニケーション論	1	1										●
	家族看護援助論	1・2	2										●
基盤科目	看護理論	1・2	2						☆		☆		●
	看護倫理	1・2	2						☆		☆		●
	コンサルテーション論	1・2	2						☆		☆		●
	看護研究方法演習	1・2		2					☆		☆		●
大学院選択科目	研究と倫理	1・2	1										
	学際プレゼンテーション入門	1・2	1										
	研究力とキャリアデザイン	1・2	1										
	大学院連携科目	1・2											

4科目8単位以上必修

●コース別必修 ◎看護管理学コース必修 ☆CNSコース選択必修 ★CNSコース必修 ○推奨

(備考) 基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位ならびに看護学特別研究8単位(CNSコース・助産学コースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目の中から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、CNSコース及び助産学コースの履修については、指導教員の指導を受けること。

8 授業科目の内容及び担当教員：令和3年度実績

(1) 専門必修科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
看護援助学特論	現代および将来を見据えたヘルスケアシステムや質の高い看護援助を提供するために、科学的根拠に基づく実践の現実に向けて、看護学及び関連学問領域の概念や理論の理解を深めます。これらの概念や理解を踏まえて、看護実践の場で発生している看護援助の問題を批判的に分析し、解決していくための研究方法について思考します。	福間美紀 内田宏美
看護援助学演習	看護援助における活動を理論的かつ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる主体的研究態度と研究手法を身につけます。	福間美紀 宮本まゆみ
看護管理学特論	看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められています。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、関係する組織・チームの調整・協働のもと解決していくための基礎的能力の修得を育成します。	津本優子 内田宏美
看護管理学演習	看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につけます。	津本優子
地域・在宅看護学特論	地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史の変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解します。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学びます。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学びます。	伊藤智子 岡本玲子
地域・在宅看護学演習	地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指します。	伊藤智子 榊原文
母子看護学特論	ライフサイクルと生涯発達の見点から、子どもと母親・家族が抱える身体的、心理社会的な問題を理解し、QOLの向上ならびに健全な発達を促すための支援について探求します。そのために関連する概念や理論、母子保健・福祉の現状・課題について学習します。	秋鹿都子
母子看護学演習	母子看護領域における先行研究の文献検討を通して自らの研究テーマを明確にし、実行可能な研究計画を作成します。この過程から基本的な研究能力の獲得をめざします。	秋鹿都子 松浦志保

がん看護学特論	<p>がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ながん看護を実践するための基盤となる理論や概念を学習します。また、がん看護実践領域における諸現象を理論や既存の研究成果と対照しながら考察を深め、治療・療養過程にあるがん患者とその家族が抱える身体的・心理社会的諸問題を理解し、生活の質を高める専門的な看護援助のあり方を探求します。</p>	若 崎 淳 子 宮 下 美 香
がん看護学演習	<p>がん看護学領域における先行研究について文献検討し、がん患者とその家族のQOL維持向上を目指してがん看護学領域の知識発展のための適切な研究課題を立てると共に、自身の研究課題をこれまでの知識蓄積の中で適切に位置づけます。そして、倫理的に研究が実行できる研究計画書を作成し、特別研究・課題研究につなげていきます。以上のプロセスを通じて、基本的な研究能力の獲得を目指します。</p>	若 崎 淳 子 橋 本 龍 樹
高齢者看護学特論	<p>複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して高度な看護援助を展開するためには、老年看護に関する基本的な概念や諸理論に基づき、加齢のプロセスで生じる健康問題と生活・人生への影響について適切な判断と評価を行うことが求められています。老年看護の基本的概念や理論を学び、それらを看護実践に活用できる能力の開発を目指します。</p>	原 祥 子 加 藤 真 紀
高齢者看護学演習	<p>各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究します。</p>	原 祥 子 加 藤 真 紀 竹 田 裕 子
高齢者アセスメント論	<p>高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、高齢者の身体的・精神的・社会的側面にわたる健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められます。高齢者やその家族の質の高い生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指します。</p>	原 祥 子
老年高度看護実践論	<p>複雑かつ多様な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、専門的知識と理論を踏まえるとともに倫理的な看護判断に基づき、CureとCareを統合した看護援助ができる能力を開発します。</p>	原 祥 子 加 藤 真 紀 吉 岡 佐知子 内 部 孝 子 空 先 育 子 塩 川 ゆ り
高齢者サポートシステム論	<p>高齢者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学びます。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発します。</p>	原 祥 子 伊 藤 智 子 竹 田 裕 子 三 輪 恭 子

老年慢性期ケア演習	慢性期治療・ケアの場において高齢者とその家族に生じる複雑かつ多様な健康問題を理解し、高齢者の可能性や強みを活かしながら解決に向けていく援助方法を学ぶとともに、必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整や倫理的な問題・葛藤についての倫理的調整、看護職者を含むケア提供者に対する相談の各役割を果たすことのできる基礎的能力を開発します。	原加内立山 藤部原根 祥真孝 子紀子 子怜子
高齢者看護学実習Ⅰ (慢性期看護実習)	慢性期治療を受ける高齢患者とその家族に対する、医療チームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発します。また、実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養います。	原加 藤 祥真 子紀
高齢者看護学実習Ⅱ (認知症看護実習)	複雑な健康問題をもつ認知症高齢者とその家族に対する、ケアチームの一員としての看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発します。また、実習を通して、認知症高齢者ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養います。	原加 藤 祥真 子紀
がん薬物療法看護援助論	がん薬物療法看護論で学んだ知識を基盤として、代表的疾患（腫瘍）の標準治療を踏まえたがん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法を探求します。がん患者が抱える薬物療法過程で生じた身体の器質的・機能的変化、並びに機能障害や日常生活動作の制限等の身体的・精神的・社会的問題を理解します。そして、患者の意思決定を支え、治療の継続並びに治療中のQOLを高める看護援助を患者の心理社会的側面から探求します。	若宮坂札 崎下井埜 淳美淳和 子香惠美
緩和ケア演習	がん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩を理解し、適切な臨床判断に基づく症状マネジメントについて学ぶとともに、がんの進行やがん治療に伴い生じる患者の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に向けて、包括的な介入ができるための看護援助の方法を探求します。キュアとケアを統合し、がん患者とその家族のQOL向上を目指した高度ながん看護実践能力の開発に向けて、研究成果の活用やエビデンスに基づく臨床判断、的確なアセスメント、援助の方法、看護実践の評価について理解します。	若秋大掛角広林坂今 崎鹿野田甲瀬井岡 淳都 崇寛 寛子 り子 淳恵 子子 巳沙 かおり 由希子
がん看護学実習Ⅰ	看護実践の中で理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につけます。がん看護実践上にある複雑で解決困難な問題をもつ事例を取り上げ、解決方法を検討します。また、実習期間中にカンファレンスを企画し事例検討を行います。参加者との討議を通して、臨床判断能力や看護援助の質を高めます。自己のサブスペシャリティを開発すると共にがん看護専門看護師として機能を考え、役割開発について考察します。	若秋上奥山加 崎鹿野崎藤 淳都 恵梨 かおり 由希子
がん看護学実習Ⅱ	がん診療連携拠点病院において、がん治療の専門医の指導の下でがんの患者を担当し、患者を客観的に評価し、診断に至るプロセス、検査所見の解釈と判断を行う臨床判断能力を習得し、それらに基づいた身体管理を体験します。そして治療中、治療後に客観的に患者を評価し、治療効果の判定や有害事象を予測できる臨床判断力と、それらの結果に基づいた身体管理方針を考える能力を習得します。また、在宅診療部門では、終末期にあるがん患者の在宅診療	若福秋高杉花佐 崎田橋浦田藤 淳誠都 弘幸 子司 子勉 明梢 恵

	に医師と同行し，医療内容と臨床判断過程を学習します。患者や家族の置かれた状況を理解し，その後の方針に関して在宅医と討論し，身体管理の方針決定プロセスを体験します。	
がん看護学実習Ⅲ	がんの治療期や在宅療養移行期，ならびに移行後のがん患者・家族に対し，シームレスな看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学びます。がん患者の在宅ケアについて豊富な看護経験をもつ訪問看護師の指導のもとでの看護実践を通し，在宅療養期や終末期にあるがん患者・家族のQOL向上を目指した症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶとともに，包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養います。	秋鹿都子 若崎淳子 奥野映子 鳥屋尾由美 福場依里子 小林由美子
がん看護学実習Ⅳ	優れた看護を継続的に実践しているがん看護専門看護師と共に行動し，がん看護専門看護師に求められる6つの役割，機能とその意義を理解します。また，がん看護専門看護師が行う熟達した役割実践活動に同行し，がん看護専門看護師が役割を開発・遂行する戦略や方策の実際を学びます。そして，役割開発に向けた自己の課題を明らかにします。	秋鹿都子 若崎淳子 上田恵巳 奥野梨沙 山崎かおり 加藤由希子
がん看護学実習Ⅴ	がん患者とその家族のニーズに応じてがん看護専門看護師としての役割が果たせることを目指し，専門看護師の役割のいくつかについて実行します。実習施設において，がん看護専門看護師が貢献できる課題をアセスメントし，専門看護師が果たす役割を計画・実施・評価します。臨地において看護専門看護師の立場から看護活動を創意工夫し，組織における看護活動を通じてその役割の実際を学び，がん看護専門看護師としての活動や姿勢，役割開発について考察します。	若崎淳子 秋鹿都子 上田恵巳 奥野梨沙 山崎かおり 加藤由希子
助産学特論	助産学の概念，意義，母子保健・医療・福祉政策，看護政策の動向，女性，子ども，パートナー，家族がおかれている社会的背景・状況，リプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状と課題について学修し，助産師に期待される役割，責務，活動範囲について考察し，対象に必要な援助を追求できる能力を培います。 助産師として対象の尊厳と権利を尊重した専門職的倫理を理解し，助産師の責務と規範を学びます。	橋本美幸 秋鹿都子 荒木ももこ
助産学演習	生涯発達看護学分野の看護・保健・医療・福祉の研究論文のクリティークを行い，女性や家族に関する健康問題や課題，解決に向けた看護実践を見出すためのプロセスを学びます。研究テーマとそれに適した研究デザイン，研究計画を検討し，課題研究へと連動させます。	橋本美幸
生殖器病態生理学	女性のライフサイクルを通じた性と生殖の疾患及び異常に関する基礎的知識の理解と科学的根拠に基づいた周産期のケアおよび分娩介助を実践するため，女性生殖器の解剖・生理，性周期とその調節機構，受精，妊娠のメカニズム，妊娠管理の生理学的，病理学的基盤と妊娠各期に起こりやすい異常の病態生理について学びます。	橋本龍樹 京出亜希 折出亜希
助産薬理学	薬理学の基礎とともに，妊産褥婦を対象として和漢薬物の効用，副作用，併用禁忌，拮抗作用，投与方法，服用方法等について解説し，妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解を深めます。さらには，母体救命救急に使用する薬剤を取り扱う上での基礎的知識を修得します。経口避妊薬，月経前症候群や更年期女性の	直良浩司 矢野貴久 今岡かおる

	マイナートラブルなどに良く使用される和漢薬についての知識を深めます。	
女性の健康教育学	健康教育の理論を活用して、女性と子ども、その家族のリプロダクティブに関連する心身の健康、各ライフステージにおける健康課題を踏まえた健康教育について理解し、対象集団・個人の特性を考慮した健康教育の在り方について学修し、考えます。 対象のアセスメントを行い、健康教育学習指導案を立案し、対象の行動変容に向けた健康教育や保健指導を展開する能力を培います。	橋本美幸 日野佳菜恵 永井真寿美 山本雅子
地域母子保健学	地域母子保健の今日的課題について理解し、地域母子保健の意義について理解します。また、地域母子保健の政策・事業を概観し、その活動状況や課題を調査・分析し、その評価や対策について考え、地域母子保健活動における助産師の役割について考察します。	橋本美幸 榎原文 比良静代 三島みどり 出雲市健康推進課 保健師
妊娠期助産 診断・技術学	ローリスクおよびハイリスク妊婦の基本的な妊婦管理について学び、正常な妊娠経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術を修得します。	橋本美幸 永井真寿美 折出亜希 皆本敏子 京哲 大熊里依 平井順子
分娩期助産 診断・技術学	ローリスクおよびハイリスク産婦の管理について学び、正常な分娩経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得します。	橋本美幸 永井真寿美 日野佳菜恵 皆本敏子 原友美 石原朋佳
産褥・新生児期助産 診断・技術学	ローリスクおよびハイリスク褥婦と新生児の管理について学び、母児の出産後の正常な経過をサポートするための助産診断と助産実践を行うための知識と技術および問題解決能力を修得します。乳幼児期の子どもの成長発達および生活環境を理解し、退院後の母児への継続的な援助を行う知識と技術を修得します。	橋本美幸 秋鹿都子 柴田直昭 板倉正幸 平井順子 山本雅子 門城すみ子
助産臨床推論	より自立した助産師の育成を図るため、臨床推論の基本的な概念を理解し、臨床診断における診断の概念や疾病の定義、診断仮説（鑑別診断）の設定および確定診断への絞り込みのプロセスを修得します。	橋本龍樹 橋本美幸
助産管理学	マネジメントの基本的考え方を学び、周産期医療の質と安全を担保する助産管理と目標管理について学修します。 臨床・地域の健康問題や課題の解決に向けた看護・助産の政策的働きかけと政策提言までのプロセスについて理解を深め、専門領域から政策提言ができる基礎的能力を培います。	橋本美幸 伊藤智子 松浦志保 三島みどり 比良静代 高村浩美 数森和栄 渋谷川あゆみ 島根県健康福祉部 医療政策課長
助産学実習 I	妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践できる能力と正常からの逸脱を予防するための助産診断力および実践力を修得します。この過程を通し、助産師の責務と規範を学びつつ助産師としてのアイデンティティを育みます。	橋本美幸 永井真寿美 日野佳菜恵 松浦志保

助産学実習Ⅱ	<p>ハイリスク妊産褥婦と胎児・新生児のもつ疾患・リスクおよびその治療・管理について学修し、身体・心理・社会的側面から統合的に対象を理解する力と助産実践力を養います。</p> <p>ハイリスク児を持つ親とその家族を取り巻く社会環境や援助など様々な問題について学び、医療・福祉など地域関連施設の多職種との協働や連携のあり方、包括的なケアについて探求できる力を養います。ハイリスク母児へのケアや援助を通して看護職の倫理的態度について考察を深めます。また、ハイリスク児を尊重したケアについて理解を深めます</p>	橋本美幸 日野佳菜 永井真寿 松浦志保
地域助産学実習	<p>地域母子保健活動について多角的な視点から総合的に理解し、母子保健事業と医療・福祉との連携・協働の実際を理解します。また、助産所での妊産褥婦および新生児・乳児への助産実践を通し、妊娠期から子育て期における助産実践力の強化を図ると共に助産所の管理運営を実践的に学びます。地域母子保健活動における助産師の役割・働き方について考察します。</p>	橋本美幸 永日野真 松浦志保
地域助産学演習	<p>女性の健康問題や課題を女性外来、文献、データ、対象地域の地区踏査などから明らかにし、問題解決のための課題、施策について提案するとともに、助産師の専門性を活かした地域活動と多職種との連携・協働の実際を学びます。</p>	橋本美幸
看護学課題研究 (がん看護 CNS)	<p>がん看護実践上の課題を探究するため、がん看護学領域における研究動向を踏まえて自己の研究課題を明確化、研究計画書を作成し、研究を実行します。データ収集・分析の過程を通じて研究手法に関する理解を深めると共に論旨一貫性のある研究論文を作成します。</p>	若崎淳子
看護学課題研究 (老人看護 CNS)	<p>高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究します。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施します。課題研究の成果は、修士論文として作成します。</p>	原祥子
看護学課題研究 (助産学)	<p>女性、子ども、家族の性と生殖に関する健康と権利に関する問題や課題を見出し、これらを理解する助産実践の方法や対策について探求します。このプロセスを修士論文として作成します。</p>	橋本美幸
看護学特別研究	<p>特論・演習及び専門科目で学んだことを基盤に、各専門領域の看護学に関する研究課題を見だし、その課題を解決するために最適な方法を検討し、研究計画を立案し、データ収集及び結果をまとめ、修士論文を作成します。</p>	福間美紀 津本優子 伊藤智子 秋鹿都子 若崎淳子 橋本龍樹 原祥子 加藤真紀

(2) 専門選択科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
リスクマネジメント論	<p>医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえます。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要性に迫られています。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習します。</p>	宮本 まゆみ 内田 宏美 川上 利枝
看護人材育成論	<p>専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習します。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善策を検討することを通して、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を養います。</p>	津本 優子 任 和子
看護情報管理論	<p>看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築における理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授します。</p>	津本 優子 石垣 恭子
保健医療福祉政策論	<p>看護管理者、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められています。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められています。</p> <p>少子高齢化社会のヘルスニーズに対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、未来の医療・保健・福祉・看護等について考察する能力を習得します。</p>	伊藤 智子 牧野 由美子 馬庭 恭子 榊原 文
老年疾患治療論 (重症フィジカルアセスメント方法論)	<p>老年期に発生頻度の高い疾患や症候群について、高齢者の生体反応の病態生理ならびに臨床的なアセスメントの方法論と最新の治療を学び、科学的根拠に基づく看護実践能力の修得を目指します。</p>	橋本 龍樹 田邊 一明 磯部 威 長井 篤 秋山 恭彦 内尾 祐司 馬庭 壮吉 蓼沼 拓 森田 栄伸 泌尿器科学講師 石原 俊治 川島 耕作 管野 貴浩 長濱 道治 大舩 孝治 加藤 真紀

認知症看護論	認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整，家族関係の調整のための具体的援助，それらに関する看護職への教育，看護職を含むケア提供者に対する相談，保健医療福祉ニーズのケア調整，倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発します。	原 祥 子 浦 上 克 哉 空 先 育 子
がん看護病態生理治療学	がんの発生，増殖，分化機構の破たん，転移浸潤，治療抵抗性など，治療や予防に関わるがん細胞特有の分子機構を学び，それらに基づいた治療法と合併症を深く理解することを目指します。	福 田 誠 司 浦 野 健 原 田 守 儀 部 威 京 哲 田 島 義 証 鈴 木 律 朗 板 倉 正 幸 玉 置 幸 久 津 端 由佳里
がん看護学援助論	がん患者の治療・療養過程における複雑な健康問題について理解し，その特性を考慮した問題のアセスメントと専門的看護ケアを提供するために必要な援助方法を学びます。そして，がん患者と家族のQOL向上をめざした包括的な支援としてのチームアプローチや専門性の高い看護援助方法について探究します。	秋 鹿 都 子 若 崎 淳 子 福 田 誠 司 掛 橋 千賀子 安 田 千 香 坂 井 淳 恵 今 岡 恵 美
がん薬物療法看護論	がん薬物療法を基盤に抗がん剤治療，内分泌療法，分子標的治療及び免疫療法の目的と特性，治療の実際並びに薬物治療を受ける患者の体験を理解し，患者とその家族に必要な援助を提供できる能力を身につけます。がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い，治療の継続，セルフケア支援，セルフケア能力向上のための方略，並びに治療中の生活の質を高める看護を探求し，実践展開できる知識と問題解決能力を培います。	若 崎 淳 子 宮 下 美 香 掛 橋 千賀子 坂 井 淳 恵 妹 尾 尚 美
緩和ケア論	がん患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し，緩和するために必要なケアの専門的知識を習得します。また，エンド・オブ・ライフケアの視点による患者・家族のQOL向上を目指した包括的看護介入，リソースの活用，グリーフケアについて探究します。	秋 鹿 都 子 大 野 智 掛 橋 千賀子 広 瀬 寛 子 加 藤 典 子 林 多 子
フィジカルアセスメント	複雑な健康問題を持つ対象者に対して，高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法を，人体の構造と機能に沿って系統的に学習します。さらに，複雑な健康問題を有する事例の検討を通して，系統的で総合的な臨床判断能力を培います。	田 邊 一 明 儀 部 威 内 尾 祐 司 泌尿器科学講師 折 出 亜 希 三 瀧 真 悟 川 島 耕 作 森 倉 一 朗 橋 本 龍 樹
病態生理学	複雑な健康問題を持つ対象者の病態を正確に捉えて高度な看護実践を行うために必要な病態生理の知識を，主要な症状や病態に焦点を当てて，人体の系統性に沿って学習します。さらに，臨床判断を求められる頻度の高い症状や病態を呈する患者事例の検討をとおして，病態のメカニズムと治療との関連を理解し，病態を踏まえた高度な看護介入を行うための基盤となる臨床判断力を培います。	紫 藤 治 藤 谷 昌 司 泌尿器科学講師 森 田 栄 伸 内 尾 祐 司 折 出 亜 希 山 本 昌 弘 川 島 耕 作

		橋 本 龍 樹
臨 床 薬 理 学	<p>ケア対象者に実施されている薬物療法について、その薬理作用の正確な理解に基づいて、薬剤使用の判断、投薬後の患者のモニタリング、症状管理、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力向上を図る等、高度な看護実践に必要な薬理・薬剤の知識を学習します。さらに、緊急応急処理、症状調整、慢性疾患管理等の事例検討をとおして、複雑な健康問題を有する対象者の薬物療法を適切に支援するために必要な高度な臨床看護判断力を培います。</p>	和 田 孝一郎 岡 本 貴 行 橋 本 龍 樹 秋 鹿 都 子
助産フィジカルアセスメント方法論	<p>妊娠・分娩・産後・新生児期の正常からの逸脱の判断、異常発生を予測する能力、予防的に行動する能力、母体の急変時・異常時に対応できる実践能力の修得のための基礎的知識と技術を修得し、妊娠・出産・産褥期の診察診断能力の向上を図ります。</p> <p>女性の生涯における健康課題や問題に対して必要とされる知識・技術を修得します。</p>	橋 本 美 幸 板 倉 正 幸 柴 田 直 昭 加 藤 一 郎 山 下 瞳 石 橋 朋 佳 原 友 美 下 条 芳 秀 明 穂 一 広 黒 崎 育 美 日 野 佳菜恵
女性の精神保健学	<p>周産期メンタルヘルスケアの重要性について学修し、妊産婦および子育て期にある母親の心のケア、母親としてのアイデンティティ形成、愛着形成への支援をするための基礎知識及び技術について学修します。</p> <p>女性の各ライフステージ、特に思春期のメンタルヘルスに影響する疾患について基礎知識を学びます。</p>	橋 本 美 幸 稲 垣 正 俊 稲 垣 卓 司 和 気 玲 林 田 麻衣子 永 井 真寿美
異文化コミュニケーション論	<p>国内外の異文化と多様性を理解し、海外における助産活動と国内の在日・在留外国人母児と家族などの異なる文化や価値観をもつ対象へのケアや支援を行う能力を培います。また、国内外の災害時における母児への助産ケアについて学びます。</p>	橋 本 美 幸

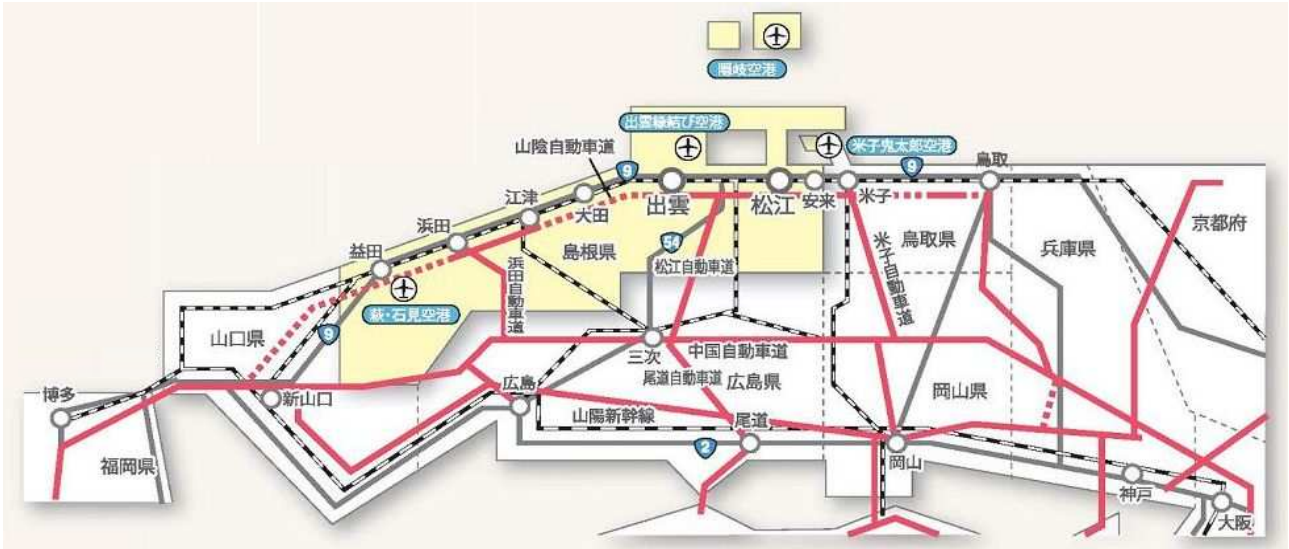
(3) 基盤科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
家族看護援助論	<p>看護学における家族を理解し実践するための概念や諸理論、研究動向を学び、看護の対象としての家族について理解を深め探求します。さまざまな状況にある家族に対して包括的な支援が提供できるよう、家族の持てる力の促進を目指したエビデンスに基づく看護援助を探求します。</p>	若 崎 淳 子 鈴 木 志津枝
看護理論	<p>実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論です。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができます。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されています。</p> <p>本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高めます。</p>	福 間 美 紀 津 本 優 子

看護倫理	<p>看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することです。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されています。本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけ、看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを判断します。さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、臨床における倫理的調整を図るための問題解決力・調整力を養います。</p>	加 藤 真 紀 榊 原 文 内 田 宏 美
コンサルテーション論	<p>人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となります。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たします。CNSをはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されています。</p> <p>本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための実践能力を養います。</p>	長 田 京 子 福 間 美 紀 宇佐美 しおり 鶴 屋 邦 江
看護研究方法演習	<p>看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究です。本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学びます。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されています。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指します。</p>	津 本 優 子 福 間 美 紀 橋 本 龍 樹 秋 鹿 都 子 加 藤 真 紀 宮 本 まゆみ 木 村 真 司

担当教員の変更によって講義等の内容を変更し、又は不開講とする場合があります。

位置図



交通案内

出雲キャンパス	空路	東京（羽田） → 出雲 ……約1時間20分	JR出雲市駅より 一畑バス 出雲市駅・上塩冶車庫行 島根大学病院下車 ……約10分 出雲須佐行 島根大学病院下車（2番のりば） ……約10分 ※須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。 徒歩 JR出雲市駅南口から徒歩25分
		名古屋（小牧） → 出雲 ……約1時間	
		大阪（伊丹） → 出雲 ……約1時間	
		福岡 → 出雲 ……約1時間5分 ※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行（約25分）JR出雲市駅下車	
	JR	東京 → 岡山 → 出雲市 ……約6時間30分	
		大阪 → 岡山 → 出雲市 ……約3時間50分	
		岡山 → 出雲市 ……約3時間	
		福岡 → 岡山 → 出雲市 ……約4時間50分	
	高速バス	東京（渋谷） → 出雲 ……約11時間20分	
		名古屋 → 出雲 ……約10時間	
		大阪（梅田） → 出雲 ……約5時間35分	
		京都 → 出雲 ……約5時間50分	
		神戸（三宮） → 出雲 ……約5時間20分	
		岡山 → 出雲 ……約4時間	
		広島 → 出雲 ……約3時間	
		福岡 → 出雲 ……約9時間10分	



※出雲キャンパスは、松江市内からは1時間以上要しますので、宿泊される場合は出雲市内の宿泊施設を利用してください。

建物配置図

